

MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究

研究代表者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科 准教授）

研究要旨

研究 1. 自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

akta にて 2019 年 12 月末までに開始から累計で 2,087 キットを配布、沖縄 mabui では総計 55 件の配布を行った。検体はすべて ACC に郵送され総計 1,756 件のスクリーニング検査を実施した。検体送付者の 99% は結果をウェブで閲覧しており、研究期間全体での陽性割合は 3.83% であった（なお複数回受検者は N=1 としてカウントした）。検査結果と配布会場で実施する行動調査のリンクも 97% の対象者から同意を得た。全配布機会ですべし東京の相談員が常駐し、全受け取り者の 23% が利用した。akta でのキット受け取り者の 24.8% が本検査が生涯初検査機会と回答していた。都市部でのハイリスク層が利用する検査であることが示された。今後、継続可能性のある方法を検討する必要がある。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

沖縄県で HIV 検査提供が可能な民間の医療機関を開拓し、同病院のウェブサイトの HIV 検査に関する案内文を、また沖縄県のホームページに「HIV 検査を実施している医療機関」として保健所と併記して掲載した。mabui が発行するコミュニティペーパーにも同病院事業を掲載、同病院の HIV 検査外来実施後、一ヶ月後には HIV 陽性者を診断することができた。nankr によるホームページ宣伝を開始することで、1.5 倍の受検者の向上を認めている。73 名の受検者を認め、陽性者も 1 名出ている。また 2019 年 6 月に行政による MSM 向け HIV と梅毒検査をコミュニティセンター mabui において実施し、上限枠を超える利用者 20 名が来場した。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

中四国地域の MSM への検査勧奨のため、MSM 向けクリニックでの検査提供を行政とクリニックと NGO が協働して実施した。2019 年 8 月 19 日～9 月 30 日において、MSM 向けの HIV・梅毒検査を目的とする「岡山県もんげ～性病検査第 9 弾」と「せとうち性病クリニック検査」を同時実施した。前者の実施クリニックは、岡山市 3 施設、倉敷市 3 施設であり、受検者総数は 31 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 3 人を新規に診断した。後者では、福山市 2 施設、松山地区 2 施設、高松市 1 施設が参加し、受検者総数は 26 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性 2 人を新規に診断した。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

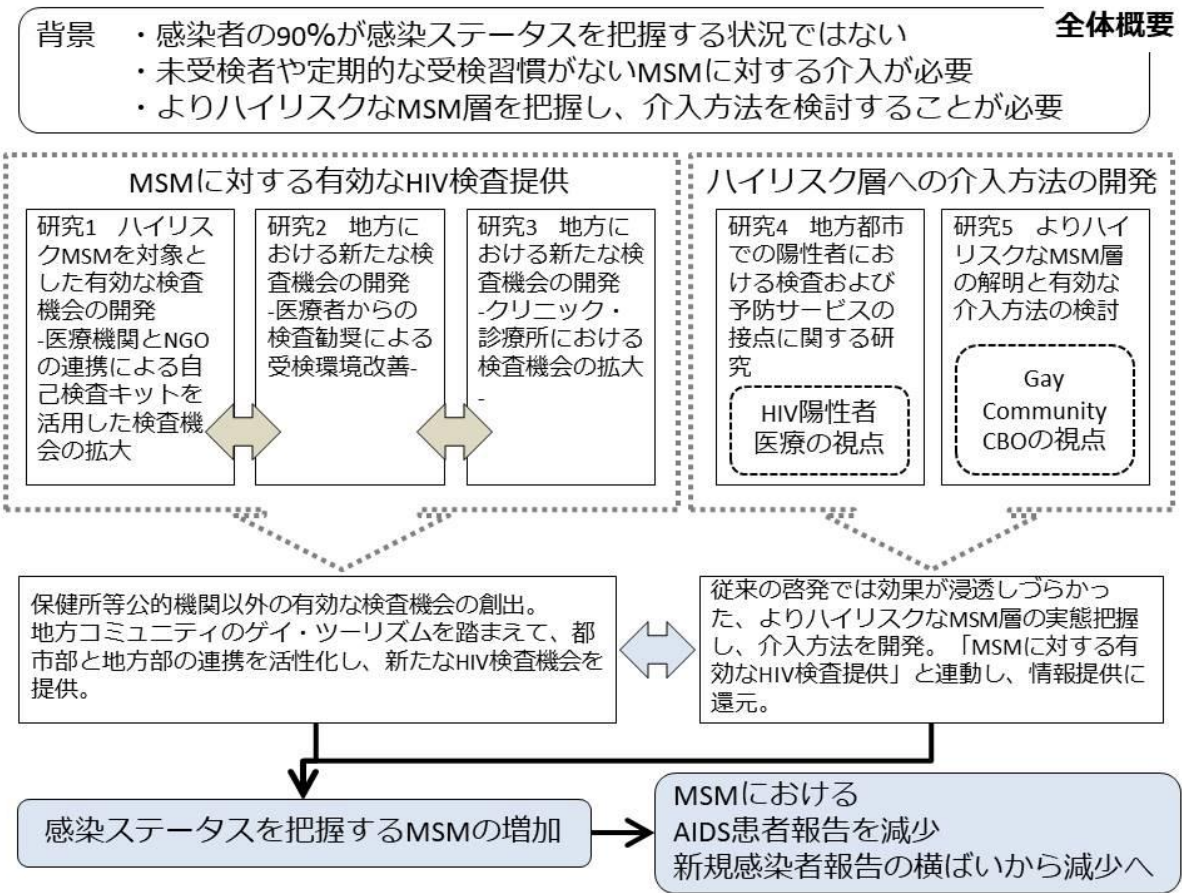
地方都市拠点病院 2 病院で調査用紙を配布し、60 件の過去 5 年以内に陽性が判明した陽性者よりデータを収集した。陽性判明前に HIV 検査を受けたものは 35% にとどまること、HIV 急性期症状が出た 92% が医療機関受診をし、そのうち HIV 検査勧奨を受けた割合は 28% であった。性感染症罹患時の治療を受けた医療機関で HIV 検査を勧奨されたものの割合が 40% にとどまっていることが明らかとなった。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

初年度には仙台、横浜、中国、四国、沖縄で、2 年度目には東京、愛知、大阪で調査を実施し、

3年度目に統合し質問紙調査データ（商業施設調査 N=981、インターネット調査 N=328）のコミュニティセンター認知別解析を行った。コミュニティセンター認知割合は商業施設調査で45%、インターネット調査で63%であった。HIV抗体検査受検経験ではコミュニティセンター認知群が82%（インターネット調査）-78%（商業施設調査）、非認知群では67%（インターネット調査）-58%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。性感染症既往歴でもコミュニティセンター認知群が55%（インターネット調査）-47%（商業施設調査）、非認知群では33%（インターネット調査）-35%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。また本年度は成人前期（20歳代）MSMにおけるHIV予防・認識と性行動に関する面接調査研究を実施し、若年層における出会い、セーフセックス、検査、予防情報の入手についての実態に関する詳細なデータを収集した。

研究分担者
 岩橋 恒太
 （特定非営利活動法人 akta 理事長）
 健山 正男
 （琉球大学大学院医学研究科 准教授）
 和田 秀穂
 （川崎医科大学血液内科学 教授）
 塩野 徳史
 （大阪青山大学健康科学部看護学科 講師）



A. 研究目的

本研究の目的は次の3点である。

1. 医療機関と NPO akta が連携して開発した自己検体採取キットの配布と検査、結果通知がパッケージ化されたシステムを活用し、ハイリスク MSM の検査推進を図る。また受検者の HIV 感染ステータスと行動データをリンクさせた血清行動疫学調査を実施する。
2. 地方都市で、公的機関以外の医療機関等を活用した新たな HIV 検査の提供体制を整備し、対面型の接触を避ける MSM への検査促進を行う。
3. 当事者 NGO が協働し、従来の予防介入が届きにくかったハイリスク MSM の実態把握と有効な介入を方法の検討を行う。

B. 研究方法

研究 1. 医療機関と NGO の連携による自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

研究分担者 岩橋恒太

医療機関(国立国際医療研究センター:ACC)と NPO が連携した検査「HIVcheck.jp」を活用して実施する。本検査の流れは下記のとおりである。①コミュニティセンターなど MSM コミュニティ内のベニューにて NGO スタッフが対面で検査の流れを説明しキットを配布、自記式質問紙調査への回答を依頼する。②同意した受検者は後日自己穿刺血したろ紙を ACC に郵送する。③ACC でのスクリーニング検査の結果は、受検者固有の ID とパスワードを専用 WEB サイトに入力することで結果ページにアクセスを可能とする。④スクリーニング検査で要確認となった場合は、指定の医療機関の予約と受診につなぎ、さらに確定検査で陽性の場合には HIV 専門医療機関を紹介する。⑤専用 WEB サイトには検査・相談・医療に関する情報サイト HIV マップ等をリンクし、支援環境を周知する。血清行動疫学分析として、受検者の検査結果と自記式質問紙調査のデータをリンクして分析す

る。陽性者の背景分析、有病割合と推定罹患率を算出する。

検査キットはコミュニティセンターakta、東京都内の MSM 向け商業施設(ハッテン場)で配布する。沖縄 mabui, 都内のゲイ向けクラブイベントでも配布する。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

研究分担者 健山正男

沖縄県で HIV 検査が早期かつ適切に提供できる体制を医療、行政、NGO の連携により整備する。令和元年度は、HIV 罹患率の高い MSM が利用しやすい保健所以外の検査機関(病院)を確保する。施設要件としては、①受付から診療まで MSM に対してフレンドリーであること、②平日以外も HIV 検査が実施できること、とした。那覇市行政による検査を mabui で実施、MSM が利用しやすい検査機関を開拓する。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

研究分担者 和田秀穂

岡山県での医療機関を活用した MSM 向け検査モデルを中四国ブロックにて普及させ、受検者動向調査、コミュニティベース調査により評価を行う。

調査地域:岡山県、愛媛県、広島県、その他中四国ブロック

令和元年度は新たに香川県での民間医療機関を開拓し、MSM にむけて二期に分けて検査提供を実施する。またインターネットを活用した CBO の広域広報により本プログラムの中四国全体への浸透・定着を図る。受検者への質問紙調査、行政への検査機関別 HIV/AIDS 報告件数、コミュニティでの横断調査により効果評価を行うものとする。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サー

ビスの接点に関する調査

研究分担者 金子典代

横断型自記式質問紙調査により、拠点病院等に通院する HIV 陽性者を対象に、感染判明前の検査、医療機関の利用、予防啓発との接点を把握し、地方都市での早期検査勧奨の考案、ハイリスク MSM の実態把握と有効な介入の考案に活用する。令和元年度は中四国、九州ブロックそれぞれの拠点病院において質問紙の配布回収を終え、解析を実施する。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

研究分担者 塩野徳史

全国の 7 NGO と連携し、横断型自記式質問紙調査を実施する。ミーティングにより調査手法の検討を行い、よりハイリスクな層を意識した質問紙調査を実施する。NGO が持つコミュニティ内のネットワークにより集めたハイリスク MSM に対し、性行動、予防行動、HIV/AIDS に関する意識を分析し、有効な介入を考案する。

また本年度は成人前期 (20 歳代) MSM における HIV 予防・認識と性行動に関するグループ面接調査研究を実施する。

調査地域：東北、首都圏、横浜、東海、大阪、中四国、沖縄

(倫理面への配慮)

研究計画については、研究者が所属または外部委託する研究機関において倫理審査を受けて実施する。本研究は血液検査が含まれており、協力依頼時には訓練された専門のスタッフが書面および口頭によって説明し、研究主体、研究目的、調査参加の任意性、予想されるメリット、デメリット、厳密な個人情報の保護、不参加の際に不利益を受けないこと、途中で中止の自由について十分に理解を得たのちに同意を得たうえで実施する。

C. 研究結果

研究 1. 自己検査キットを活用したハイリスク MSM 対象の検査機会の拡大

平成 29 年度末 (2 月 26 日) よりコミュニティセンターakta での検査キットの配布を開始した。令和元年度は東京都内のクラブイベント (台風にてイベントがキャンセル)、また沖縄コミュニティセンターmabui でも 2 回目の配布を行った。本研究機関で累計 2,087 キットの配布を行った (ハッテン場では 49 キット、沖縄では令和 1-2 年度 2 回で 55 キットを配布)。2,087 件の配布キットのうち、84.1% の検体が ACC に郵送された。いずれの配布時にも相談支援の専門家が常駐しており、キット受け取り者の 23% に相談利用があった。外国籍者の利用が全体のうち 10% であった。本研究では、行動調査とスクリーニング検査をリンクさせる血清疫学行動調査を実施しているが、全体の 97% からリンクの同意を得た。キット受け取り者の属性は、平均年齢は 32.7 歳、全体の 24.8% がこれまでの検査経験がないものであった。ACC での 1,756 件の回収済検体のうち、スクリーニング検査で 45 名陽性が判明している。そのうち、医療機関受診を確認できたものは 21 件 (46.7%) であった。ゲイ向け商業施設であるハッテン場配布由来の検体の陽性割合は、コミュニティセンター配布由来検体より高かった。

研究 2. 地方における新たな検査機会の開発 - 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善 -

沖縄県で HIV 検査提供が可能な民間の医療機関を開拓し、広報として、同病院のウェブサイト上の HIV 検査に関する案内文を作成した。また沖縄県のホームページに「HIV 検査を実施している医療機関」として保健所と併記して掲載された：<https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/chiikihoken/kekkaku/hivaid.html>。MSM 向けの広報強化のため、mabui が発行するコミュニティペーパーにも同病院事

業を掲載、MSM向けのサイトに広告を掲載した。同病院の HIV 検査外来実施後、一ヶ月後には HIV 陽性者を診断することができた。また行政のホームページ、nankr でも宣伝を行い、1.5 倍の受検者の向上を認めている。73 名の受検者を認め、陽性者も 1 名出ている。

2019 年 6 月に行政による MSM 向け HIV と梅毒検査をコミュニティセンター mabui において実施した。上限枠を超える利用者 20 名が来場した。広報は NGO が担当した。

研究 3. 地方における新たな検査機会の開発 - クリニック・診療所における検査機会の拡大 -

中四国地域の MSM への検査勧奨のため、MSM 向けクリニックでの検査提供を行政とクリニックと NGO が協働して実施した。2019 年 8 月 19 日～9 月 30 日において、MSM 向けの HIV・梅毒検査を目的とする「岡山県もんげ～性病検査第 9 弾」と「せとうち性病クリニック検査」を同時実施した。前者の実施クリニックは、岡山市 3 施設、倉敷市 3 施設であり、受検者総数は 31 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性者 3 人を新規に診断した。後者では、福山市 2 施設、松山地区 2 施設、高松市 1 施設が参加し、受検者総数は 26 人で、HIV 陽性者 1 人、梅毒陽性 2 人を新規に診断した。

研究 4. 地方都市での陽性者の検査・予防サービスの接点に関する調査

地方都市拠点病院 2 病院で調査用紙を配布し、60 件の過去 5 年以内に陽性が判明した陽性者よりデータを収集した。陽性判明前に HIV 検査を受けたものは 35%にとどまること、HIV 急性期症状が出た 92%が医療機関受診をし、そのうち HIV 検査勧奨を受けた割合は 28%であった。性感染症罹患時の治療を受けた医療機関で HIV 検査を勧奨されたものの割合が 40%であり、検査を勧められたものの 87%は検査を受検していた。また陽性判明前 1 年間の商業施設利用については、ゲイバーよりハッテン場

(41.2%)の方が利用割合が高かった。

研究 5. よりハイリスクな MSM 層の解明と有効な介入方法の検討

全国の NGO と協働し、よりハイリスクな層を明確化するために、インターネット利用に関する項目、TasP、PrEP に関する知識について尋ねる質問項目も加え、新たな質問紙を作成し調査を実施した。初年度には仙台、横浜、中国、四国、沖縄で、2 年度目には東京、愛知、大阪で実施し、3 年度目に統合し質問紙調査データ（商業施設調査 N=981、インターネット調査 N=328）のコミュニティセンター認知別解析を行った。コミュニティセンター認知割合は商業施設調査で 45%、インターネット調査で 63%であった。HIV 抗体検査受検経験ではコミュニティセンター認知群が 82%（インターネット調査）-78%（商業施設調査）、非認知群では 67%（インターネット調査）-58%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。性感染症既往歴でもコミュニティセンター認知群が 55%（インターネット調査）-47%（商業施設調査）、非認知群では 33%（インターネット調査）-35%（商業施設調査）であり、有意差がみられた。

また本年度は成人前期（20 歳代）MSM における HIV 予防・認識と性行動に関する面接調査研究を実施し、若年層における出会い、セーフセックス、検査、予防情報の入手についての実態に関する詳細なデータを収集した。

20 歳代のセックス相手との出会いは、多様であるが、その時々アプリ等ネットツールやリアル場の状況を見つつ、マメな使い分けや組み合わせた使い方を行っている。どのように出会っているのかを常に把握し続けながら、HIV や性感染症の情報支援や介入をしていく効果的な場を求める必要がある。

中学校・高校での HIV や性感染症の授業で学んだことは、その後 20 代に至っても記憶に残っており、また教科書はネット情報に比べてより信頼されている。シャワ浣やセックス前の

準備なども含め、20代のセックスについての情報は口コミや各自の経験から模索しているところも大きい。また「不特定多数」に代表されるように、用語の意味がわからず各々が自己解釈している場合も少なくない。HIVや性感染症に限らず、セックスについての情報提供をしたり、セックスについての意見交換をする場を設けるとよりよいとも思われた。HIVやSTI検査機会の充実・拡大は20歳代でも要望されていた

D. 考察

研究1は、akta以外の場所でも配布を実施し、3年間でほぼ計画通りに実施を行った。2月末までACCにて検体の受付は行い中間集計ではあるが、2.5%を越す陽性割合となっている。スクリーニング陽性者の確認検査へのつなぎを向上できるよう、医療機関受診予約から受診への流れのビデオを作成、キット配布時の説明強化を行った。2019年8月から無料匿名での確認検査へとつなぐべく東京都からもスクリーニング陽性者の検査の受け入れ先として協力を得た。しかし、中間時点ではあるが、陽性者の医療へのつなぎの捕捉率は50%を切っており、この点で課題を残した。

研究2については、医療とMSMコミュニティが連携し、開拓した民間医療でのHIV検査の広報を行い、急性感染期の患者の早期発見へとつながった。

研究3は毎年新しくクリニックを開拓し、計画通り拡大展開を実施できた。「せとうち性病クリニック検査」での受検者アンケート調査では、29歳以下の若年層で初受検者の割合が71.4%と高かったのが特徴であり、「もんげ〜性病検査」の広報の認知度も高く、CBOとの協働が重要であることが改めて示された。

研究4では、過去5年に感染が判明した地方都市陽性者MSMの感染前のHIV検査機会や利用した商業施設についての把握が可能となった。急性感染期や性感染症罹患時に医療機関に

受診しているにもかかわらず適切にHIV検査勧奨がなされていないことが示された。

研究5では、全国NGOと協働し、質問紙調査結果に基づき、検査未受検層、ハイリスク層を明確化することができた。コミュニティセンター認知群は感染リスクが最も高い層であり、検査経験の高さや啓発資材の浸透度より予防介入が届いていると考えられた。コミュニティセンター認知群は、性感染症既往歴は高いが、コンドーム使用および啓発資材の浸透度は約半数であるため、継続的な予防介入が必要である層と考えられる。一方で、コミュニティセンター非認知群において、先行研究に比べ感染の拡大が示唆されており、啓発資材の浸透度は低い。今後はコミュニティセンターより発信される情報を、コミュニティ全体にさらに広げるような手立てを考えていく必要がある。また20歳代の若者は、複数のSNSサービス、アプリ、サイトを使い分けながら相手とも出会っており、商業施設ベースのみならず、ネットを介した出会いが増えていることが示された。出会いの状況を把握し続け、効果的な予防啓発の場を探ることが急務であることが示された。

1) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

わが国では未達成である「90%の陽性者が自身の感染ステータスを把握する状況」の到達のためにも、self-testingの手法の一つである「HIVcheck.jp」がMSMコミュニティにて浸透しうるかを検証する試みは社会的にも意義が高い。コミュニティベースに展開する「HIVcheck.jp」での陽性割合は従来の保健所の陽性割合より8倍以上高く、受け取り者の20%以上は生涯初の検査機会となっていること、ハッテン場由来の検体の陽性割合が高いことから、ハイリスクなMSMへの検査としては有用であることが示された。

地方都市では、急性感染期の医療機関の早期受診の促進、医療者からの適切な時期に検査勧

奨を行うことはきわめて重要であることが示された。医療とコミュニティが協働し、医療者、MSMコミュニティ双方に働きかける社会的意義は大きい。NGO、行政、医療の連携による民間クリニックを活用した MSM への HIV 検査の事業化に成功したモデル事例を周辺県にも拡大させることは、他の地方都市にもモデルになっている。従来の商業施設ベース型の介入が届きにくかったハイリスク MSM の実態把握や介入開発は日本では未実施であり社会的意義は高い。

2) 研究の達成度について

達成度について、研究 1 の「HIVcheck.jp」は、akta 以外での配布も実施してきており、今年度はゲイ向けクラブイベントでの配布も計画したがイベント当日に大型台風が来たためイベントがキャンセルとなり、特定日、特定場所での単回の配布プログラムに伴う課題が示された。また外国籍 MSM の利用も全体の 10%を超えており、検査ニーズがあることが示された。研究 2、3 の地方都市での検査拡大については、研究者、NGO、行政の協働により検査、効果評価が予定通りに進行した。研究 4 では、地方都市における検査機会の少なさや性感染症罹患時、急性期症状を呈して医療機関に受診しているにもかかわらず HIV 検査が実施されていない状況を示した。研究 5 については、全国 NGO による研究チームが構成され解析が進行した。

3) 今後の展望について

本研究の成果により、新たな検査の手法の事業化や MSM 向けの検査機会拡大、全国での地方都市の検査体制の整備、介入の展開につないでいくことが期待される。

E. 結論

UNAIDS の 90-90-90 の初めの段階である「90%の陽性者が自身の感染ステータスを把握する状況」の到達には、MSM への更なる検査

拡充が必須である。今回の「HIVcheck.jp」、地方都市での検査促進についても、いずれも NGO と行政と医療との協働による取り組みが必須となる。また従来の商業施設ベースの予防介入が届きにくかったハイリスク MSM にも情報を届ける仕組みを作り、よりハイリスクな層へのアウトリーチへとつなげる必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

研究代表者

金子典代

1. 学会発表（国内）

- 1) ○金子典代：MSM における HIV 検査受検、定期検査受検のハードルを下げるための試み。日本エイズ学会シンポジウム、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) ○金子典代：MSM に対する検査提供と予防介入の実践と変遷。シンポジウム 4、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 高橋良介、石田敏彦、藤浦裕二、岩崎 誠、今橋真弓、金子典代：東海地域におけるゲイ・バイセクシュアル男性を対象とした性感染症検査会の NGO による広報とその効果。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴：コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透。第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行。第 33 回日本エイズ学

- 会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 宮田りりい、塩野徳史、金子典代: MSM (Men who have sex with men) に包摂される女装者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov, Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjamts, Davaalkham Jagdagsuren, Seiichi Ichikawa, Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi Oka : Studies evaluating NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia: Results of the internet surveys in FY 2013, 2014, 2017 and 2018. The 33rd Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Kumamoto, 2019.
- 8) ○林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、瀧永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一: 乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 9) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史: MSM を対象とする、2018 年の A 型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 10) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平: MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 11) 金子典代: MSM に対する支援 何が必要か. シンポジウム 1、第 68 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 66 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会、仙台、2019.

2. 学会発表 (国外)

- 1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma,

Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing ‘HIVcheck.jp’ is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

- 2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme “Delivery Health Project” as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

研究分担者

岩橋恒太

1. 学会発表 (国内)

- 1) ○岩橋恒太: NGO の視点からみた新しい確認検査法への期待 ~コミュニティセンターakta での HIVcheck.jp の経験から. シンポジウム 2、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 本間隆之、岩橋恒太、生島 嗣、貞升健志、長島真美、市川誠一、今村顕史: MSM に向けた HIV 検査相談会「快速あんしん検査上野駅」3 年間の取り組み. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城祐貴: コミュニティセンター来場者におけるセンターでの情報入手や相談経験、HIV 検査行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向

- 弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) ○林田庸総、柏木恵莉、土屋亮人、高野 操、青木孝弘、瀧永博之、菊池 嘉、岩橋恒太、金子典代、岡 慎一：乾燥ろ紙血を用いた HIV Ag/Ab 郵送検査の性質についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 佐野貴子、近藤真規子、土屋菜歩、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、清水茂徳、生島嗣、岩橋恒太、今井光信、加藤真吾、市川誠一、白阪琢磨、今村顕史：ウェブサイト「HIV 検査・相談マップ」を用いた HIV 検査相談情報の提供とサイト利用状況の解析. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) 岩橋恒太、金子典代、荒木 順、木南拓也、鈴木敦大、堅多敦子、今村顕史：MSM を対象とする、2018 年の A 型肝炎の拡大の注意喚起に関する効果評価調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 8) 今村顕史、堅多敦子、岩橋恒太、荒木 順、金子典代、生島 嗣、西浦 博、齋藤涼平：MSM における A 型肝炎流行への対策と効果についての検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
2. 学会発表 (国外)
- 1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing ‘HIVcheck.jp’ is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
- 2) Kinami T, Fujiwara K, Suzuki A, Abe J, Araki J, Iwahashi K, Kaneko N, Honma T: The Outreach Programme “Delivery Health Project” as the Best Practice of HIV Prevention for MSM in Tokyo Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.
- 健山正男
1. 学会発表 (国内)
- 1) 健山正男：トキゾプラズマ症の現況と課題. シンポジウム 5、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 上原 仁、諸見牧子、与那覇房子、前田サオリ、宮城京子、石郷岡美穂、大城市子、辺士名優美子、仲村秀太、健山正男、藤田次郎、中村克徳：ラルテグラビル 1200 mg とプロトンポンプ阻害薬との併用による有害事象が疑われた一例. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) ○岩橋恒太、金子典代、高野 操、岡 慎一、本間隆之、健山正男、玉城祐貴、市川誠一、荒木 順、木南拓也、生島 嗣、佐藤郁夫、福原寿弥、林田庸総、中山保世、小日向弘雄、今村顕史：MSM を対象とした郵送検査キット用いた HIV 検査「HIVcheck.jp」のベニューの拡大の試行. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) 前田サオリ、宮城京子、仲村秀太、名嘉山賀子、健山正男、上原 仁、石郷岡美穂、大嶺千代美、藤田次郎：HIV 感染および肺結核が判明した外国人母子の療養支援. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) 蜂谷敦子、佐藤かおり、豊嶋崇徳、伊藤俊広、林田庸総、岡 慎一、瀧永博之、古賀道子、長島真美、貞升健志、近藤真規子、椎野禎一郎、須藤弘二、加藤真吾、谷口俊文、猪狩英俊、寒川 整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌秀、太田康男、茂呂 寛、渡邊珠代、松田昌和、重見 麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊 大、小島洋子、森 治代、藤

井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、山本政弘、松下修三、健山正男、藤田次郎、杉浦 互、吉村和久、菊池 正：国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

- 6) 饒平名聖、石原美紀、島袋末美、渡嘉敷良乃、名護珠美、上原 仁、宮城京子、前田サオリ、仲村秀太、健山正男、前田士郎：当院における HIV-1 インテグラーゼ薬剤耐性検査の検出状況報告. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 7) 仲村秀太、健山正男、名嘉山賀子、上原 仁、前田サオリ、宮城京子、藤田次郎：一次結核を発症した生後 7 ヶ月の HIV 陽性乳児において TDM によるラルテグラビル投与量設定が奏功した 1 例. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

2. 学会発表 (国外)

- 1) OKota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Misao Takano, Shinichi Oka, Takayuki Honma, Masao Tateyama, Seiichi Ichikawa, Jun Araki, Takuya Kinami, Yuzuru Ikushima, Ikuo Sato, Toshiya Fukuhara, Tsunefusa Hayashida, Nakayama Yasuyo, Hiroo Obinata, Akifumi Imamura: Dry Blood Spot-Based HIV Testing 'HIVcheck.jp' is a New Testing Opportunity for Men who have Sex with Men in Tokyo, Japan. FAST-TRACK CITIES 2019, LONDON, September, 2019.

和田秀穂

1. 論文発表

- 1) 和田秀穂. : HIV 感染症の過去・現在・未来. 臨床病理 67 (補冊) : 5, 2019.
- 2) 安井 晴之進, 橋本 誠也, 林 茂樹, 横井 桃子, 松本 誠司, 廣瀬 匡, 竹内 麻子, 徳永 博俊, 近藤 敏範, 近藤 英生, 和田 秀穂. : R-MPV 療法が奏効した HIV 関連 PCNSL の

1 例. 臨床血液 60(5) : 515, 2019.

- 3) Nakagiri I, Tasaka T, Okai M, Nakai F, Bunya R, Nagai S, Yoshida T, Tokunaga H, Kondo E, Wada H. : Screening for human immunodeficiency virus using a newly developed fourth generation lateral flow immunochromatography assay. J. Virol. Methods. 274 :113746, 2019.

2. 学会発表 (国内)

- 1) ○和田秀穂：地方における性病クリニック検査の事業化と今後の展望. シンポジウム 4、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 2) 野村直幸、松井綾香、飯塚暁子、藤原千尋、門田悦子、木梨貴博、村上由佳、齊藤誠司、坂田達朗、和田秀穂：HIV 感染症治療における院外処方への移行の推進に向けた薬剤師の取り組みと課題. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 3) 松井綾香、野村直幸、村上由佳、藤原千尋、飯塚暁子、木梨貴博、門田悦子、齊藤誠司、坂田達朗、和田秀穂：HIV 感染症治療における院外処方移行促進のための病院 - 保険薬局間での情報共有に対する取り組み. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 4) 近藤陽介、安井晴之進、福田寛文、竹内麻子、徳永博俊、近藤英生、和田秀穂：大量メトトレキサート併用化学療法が奏功した HIV 関連リンパ腫の 2 例. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 5) 西田拓洋、中尾 綾、中村美保、川田通子、海面 敬、臼井麻子、池谷千恵、吉川由香、武内世生、窪田良次、尾崎修治、佐藤 穰、千酌浩樹、和田秀穂、山下 光、山之内純、高田清式：中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究 - 体制構築 - . 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.
- 6) 飯塚暁子、藤原千尋、村上由佳、門田悦子、三笠かおる、大島瑞穂、松井綾香、野村直幸、

木梨貴博、齊藤誠司、坂田達朗、和田秀穂：
当院の HIV 感染症通院患者における精神科受
診の現状と課題. 第 33 回日本エイズ学会学
術集会・総会、熊本、2019.

塩野徳史

1. 学会発表 (国内)

1) 塩野徳史：長期療養時代の医療・行政・コ
ミュニティの協働態勢の構築. 共催シンポジ
ウム 1、第 33 回日本エイズ学会学術集会・総
会、熊本、2019.

2) ○金子典代、太田 貴、荒木 順、岩橋恒
太、石田敏彦、宮田りりい、塩野徳史、玉城
祐貴：コミュニティセンター来場者における
センターでの情報入手や相談経験、HIV 検査
行動、新しい知識の浸透. 第 33 回日本エイズ
学会学術集会・総会、熊本、2019.

3) 宮田りりい、塩野徳史、金子典代：MSM (Men
who have sex with men) に包摂される女装
者たちの性行動や HIV 感染症に対する意識.
第 33 回日本エイズ学会学術集会・総会、熊
本、2019.

4) Michiko Takaku, Myagmardorj Dorjgotov,
Erdenetuya Gombo, Nyampurev Galsanjams,
Davaalkham Jagdagsuren, Seiichi Ichikawa,
Satoshi Shiono, Noriyo Kaneko, Shinichi
Oka : Studies evaluating NGOs' HIV
prevention interventions targeting MSM
community in Mongolia: Results of the
internet surveys in FY 2013, 2014, 2017
and 2018. The 33rd Annual Meeting of the
Japanese Society for AIDS Research,
Kumamoto, 2019.

5) ○塩野徳史：MSM におけるセクシュアルヘ
ルス (HIV 検査行動、新しい知識) に関する
現状. 第 33 回日本エイズ学会学術集会・総
会、熊本、2019.

6) 戸ヶ里泰典、井上洋士、高久陽介、大島 岳、
阿部桜子、細川陸也、塩野徳史、米倉佑貴、
片倉直子、山内麻江、河合 薫、若林チヒロ、

大木幸子：日本人 HIV 陽性者におけるストレ
ス関連成長の実態とその特徴. 第 33 回日本
エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

7) 宮階真紀、塩野徳史、要友紀子、宮田りりい、
松下修三：セックスワーカーにおけるセク
シュアルヘルスに関する現状. 第 33 回日本
エイズ学会学術集会・総会、熊本、2019.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし